リリカル？微妙です

風竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカル？微妙です

【Nコード】

N8781K

【作者名】

風竜

【あらすじ】

魔法の素質0のオリジナル主人公ラゴウ・エヴィーリヒカイトがリリカルなのはな世界で過ごすちょっとダーク気味なお話です。

プロローグ（前書き）

これは作者の突発的な妄想を元にした作品ですなので

色々と設定がめちゃくちゃです、突っ込みどころも満載です

それでも読んでやるよと言っただけならば幸いです

プロローグ

光があれば影がある

ここ廃棄都市というのはミッドチルダの影だ

華々しい市街とは真逆の汚物や犯罪が日常となる場所だ

年端の行かないガキが体を売る、薬の売人が薬欲しさのイカレタ奴に殺される、その逆も然り

ここはそんなどこにでも在るような最低な場所の一角

だからこそ、魔導師が遊び半分で“人間狩り”をする事だつてある。

“力”のある人間が“力”のない人間を蹂躪する

優越感に、退屈しのぎに、人を獲物に見立ててなぶり殺しにする最低のゲーム

だが今日だけはいつも通りの展開にはならなかった

選んだ相手が悪かったのか

今までやってきた事への罰なのか

だが、この日を持って彼らの“人生”^{ゲーム}は終りを告げた

弱者と嘲笑いなぶり殺しにしてきた者達と同様の“持たざる者”に
“持つ者”は敗北した

ある者は頭蓋骨を踏抜かれ、ある者はコンクリートの壁に突き刺さり、ある者は心臓ごと貫かれて

「ひっ……！た、助けてくれ……もうこんな事しないから……！」

「そう言ってテメエは何人殺してきたんだ？」

「ガ……ッ……！」

躊躇いも情けも容赦も一切無しに男を蹴り上げる

表情はなく、ただゴミを見るような目で最後に残った男を見つめる

「ぐ……グズがあ”ッ!!」

ありつたけの魔力を込めた砲撃

殺傷設定の砲撃は直撃すればただでは済まない

だが

「じゃあな」

「え……？」

避けられない筈だった

居る筈のない場所から、居る筈のない者声が聞こえ

グシャ

何かが砕けるような音を最後に男の意識は永遠に途絶えた

「ちっ汚れちまったか…またあいつ等にどやされるな」

脳漿と返り血で汚れたコートを一瞥し、これから起こるであろう事柄に鬱屈した気分になる

たった今人を殺した事に何の感慨もなく、汚れたコートと小言に頭を悩ませる。男にとって今殺した奴らなどその程度でしかないのだ。

「さて……あっちも終わったみたいだな」

言い終わると同時に二つの影が別々の方向から飛び出す

片や四肢を使い獣のように地を駆け抜けるモノ

片や両足と後ろのバーニアの噴射で空を駆けるモノ

二つの影は男の元まで来るとそのまま停止する

現れたのは金属の光沢

鋭い爪と牙を携えた鋼鉄の竜と獣

「全員始末したみてえだな、後で高級オイルをこちそうしてやる」

鋼鉄の竜と獣はその言葉を聞き嬉しそうに声を鳴らす

鋼鉄の竜の名は“バーサークヒューラー”

鋼鉄の獣の名は“ライガーゼロ”

とある科学者によって作られた彼等は男を主と認識しており、また男も相棒として信頼を寄せている

「仕事は終わりだ、証拠のデバイス持ってさっさと家に帰るぞ」

先ほど殺した男どもから奪い取ったデバイスを弄びながら廃棄都市を歩き始める

男の名は“ラグナ・エヴィーリヒカイト”

地獄の底から来た“鬼”と人は言う

ブログ（後書き）

やってしまった…ぜ

色々ツッコミが満載ですが続けていけるように頑張ります！

これから色々とかオスになっていくかもしれません

第二話（前書き）

ノリと勢いで書いた

これからもノリと勢いで書いていくと思います

第二話

ラゴウ?... ああ、あの紅鬼のラゴウか。

奴の事が知りたい？それならそこらの奴にでも聞きな、多分こつ言
うぜ？

ありや人間じゃねえ“鬼”だつてな

紅鬼？ありやバケモンだよ、眉間に銃突き付けられてから避けやが
るんだぜ？人間業じゃねえって

俺は奴が一人で臓器売買やってた連中を皆殺しにしたって聞いたぞ
？理由は『気に入らなかつた』唯それだけだつてよ

止める、あいつの話はするな！今でも目蓋に焼き付いているんだ、
楽しそうに人を壊している姿を！！

おれは奴を引き込もうと画策した奴が何人か居たが大抵の奴はお陀
仏さ、なんでかって？知らんよ本人曰く自己防衛らしい

BJ着た魔導師を魔力強化もしてねえ唯の拳で撲殺しやがった奴を
人と呼べるか？ありや鬼だよ

ラゴウさんですか？何度か助けてもらった事があります。ちょっと
見かけは怖いですけどね？

おれが聞いた事があるのは奴がロリク…（頭蓋が砕けて額から血が
噴出

とまあ様々な評価を受けているラゴウではあるが

今現在彼は説教の真っ只中だったりする

「血は落ちにくいのだと何度言えば分かる！それを毎度毎度汚して
帰ってきておつて！！」

「仕方ねえだろ、俺の戦闘はそういう風になっちまうんだから」

「黙れ、発言を許した覚えはない。良いか以後小虫の血などで汚し

て帰ってくる事は許さん」

「まあ出来る限り善処する」

「善処ではない、我の言う事は絶対だ！血一滴たりとも付けることは許さん！！」

「無茶苦茶だなおい！？」

会話だけを聞いていれば母親に怒られる息子、又は夫婦喧嘩ともとれない

だが現実には、どう見ても小学生にしか見えない少女と二十歳前後の青年という図式だ

微笑ましいと言えば微笑ましいが言っている内容はかなり物騒である。

「その辺にしてくださいヤミ、もう夕飯の支度が終わります」

「む、いや駄目だ星光の、今ここでこの下郎に……！？」

“下郎”という単語の終わりと共に“ゴン……”と擬音が付きそうな容赦のない一撃が下される

あまりの痛さにその場で頭を押さえながら蹲るヤミと呼ばれた少女

「誰が下郎だ、いい加減その尊大な態度をどうにかしやがれ」

「ぐ…この、我を闇統べる王と知っての狼藉か下…ゴホンッ！ラゴ
ウー！」

下という単語に先ほど振り下ろされた拳がピクリと反応したのを見てあわてて言い直す闇統べる王

王と言えども苦手なものは確かに存在しているようだ。

「はん！クソボロになってたのを拾ったのは誰だと思ってやがる」

「ふん！家事の一つもこなせぬ奴が言いよる、誰が家事をしている
と思ってる？」

バチリと両者の間で火花が散る

「どつちやお前とは一つ話し合いが必要みたいだな」

「そうだな、我も常々貴様とは一度雌雄を決さねばならぬと思っていたところだ」

「二人とも先程私が言った事を忘れたのですか？それとも私も“話し合い”（砲撃）を致しましょうか？塵も残さぬ程に」

無表情で己のデバイスであるルシフェリオンを砲撃モードにさせている“星光の殲滅者”

心なしかピンク色の魔力が銃口の奥に見え隠れしている

「ん、いやまあ俺も大人げなかったなこれからは気を付ける」

「ゴホンッ！いや我も言いすぎた、王たるものもつと寛容にならねばな」

流石に命の危機を感じたのか両者共に鉾を納める

この家のヒエラルキーを垣間見た瞬間であった。

「ご飯ご飯 あれ…どうかしたの？あの二人」

ドタドタと音を立てながら階段を降りてきたのは水色の髪をした少女

「何でもありませんライ、では料理を運ぶのを手伝ってください。」

「了解！ささっと準備してご飯食べよう……ってあれ？ラグナ何処行くの！？ラグナも準備手伝ってよ！！」

「あいつ等に今日のご褒美で高級オイル渡す約束してたんだよ、忘れると暴れるからなあいつ等」

「偶には僕も連れてって欲しいんだよ！最近お留守番ばかりだし」

「……アホの子が少しでも改善されりゃ考えるんだがな」

「酷い！僕アホの子じゃないもん、アホって言った方がアホなんだぞ！！」

ギヤアギヤアと騒がしい声を聞き流しながら待っているであろう二体の従者の元へと歩き出すラグナ

これがこの家の日常である

廃棄都市の一角に存在する彼らの家

可愛らしい容姿とは裏腹に情け容赦のない3人の少女

手を出せば引き裂き食い干切る鋼の体躯を持つ二匹の番犬

そして、野獣の如き眼光と燃えるような紅い髪を持ち魔導師をも撲殺する紅鬼と呼ばれる男

ここを廃棄都市の連中は畏怖の念を込めてこう呼ぶ

“鬼が島”と

第二話（後書き）

何故こうなった？

キャラとか色々壊れてますがすみません

日常はこんな感じで戦闘は前話みたいな感じになっていくと思います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8781k/>

リリカル？微妙です

2010年10月15日22時46分発行